

研修報告書No. 8

研修先 高岡郡佐川町立高北国民健康保険病院
馬路村立国民健康保険馬路診療所
所属 聖マリアンナ医科大学病院 研修医

私は研修医2年目の2013年8月の3週間を佐川町の高北病院、1週間を安芸郡馬路診療所で研修を行いました。今回の高知県での研修を通じて大学病院で1年間研修してきたこととはまた違った地域独特の経験をすることができました。

・高知県の県民性とまとまり

高知県は四国で一番広い県であり東西に広く、高速道路で高知県に入ってから途中に山中を通りなかなか市街地までたどり着きません。幕末に活躍した坂本龍馬はこの山中を超えて維新をなしたのかと考えたことを今でも覚えています。

そうした地形からか県民にまとまりがあり、独特の県民性があると思いました。県自体が『高知家』をかかげ一致団結していこうと推進しているのと同時に県民全員がお互いに周囲の住人を気にかけていると感じました。研修最終週に地域の高齢者の方々に夏の過ごし方について講演をさせていただく機会があったのですが、近隣の方々みんなで体調の変化や熱中症にかからないよう注意し合っているといわれていました。こうした地域でのまとまりは私たちの地域ではなかなかみることにはできません。

・高知県の医療

高知県は東西に広い地形ではありますが医療の中心は高知市周囲のごく狭い地域にまとまっています。私は週末ごとに高知県内をまわりましたが一般道を含め有料道路もほとんどが1車線であり、1台でもゆっくりと走る車がいるとそれ以降は渋滞が続いてしまいました。電車に関しても路線・本数ともに少なく決して交通機関が充実しているとはいえません。そうした状況のなかで活躍しているのがドクターヘリであり、私が馬路診療所で研修していた1週間でもドクターヘリを要請する機会がありました。ドクターヘリの出動機会は首都圏ではその多くが交通外傷などのような緊急を要するものがほとんどですが、高知県では交通機関の問題から患者搬送を行うこともしばしばであるとのことでした。

私の研修した医療機関では専門性よりも幅広くさまざまなことができる医師が必要とされると思いました。もちろん専門的に手術を行うことも大切ですが患者も治療より予防を重視しているように感じました。多くの方が検診を受診し、高知県独自の百歳体操に参加していました。そうした環境のなか私の指導医も外来や病棟を診るのはもちろん、検診で内視鏡をしたり、老健への往診をしたりと多岐にわたり活躍していました。地域の医師の数が限られているため、様々なことをできる能力が必要とされていると思いました。

・高知県での研修を終えて

今回の研修で町の中核病院、そして村の診療所と研修させていただきましたが、それぞ

れその地域で核をなす医療機関であり患者から本当に必要とされていました。地域に根ざした医療を提供することが必要とされているため、患者の背景も知り退院支援をしていることや、退院後も訪問診療を行うことでより密接な関係にあると思いました。

高北病院では検査室、リハビリ、訪問診療、デイサービス、老健などで研修する機会がありました。どこもいままで訪れたことが無かったため、とても良い経験になりました。どの施設でも患者のことをそれぞれの医療者がよく知り、情報を共有していました。少ない人員のなか情報を共有することの大切さ、チームで患者を診ることの大切さを学びました。

高知県での研修、人との出会いは私の一生の宝になりました。一度でも高知を訪れた人は高知を好きになると思います。来年の夏もまた高知を訪れたいと思っています。